

会議の要旨

会議の名称	令和5年度 第2回和泉市教育委員会評価委員会
開催日時	令和5年5月18日(木) 午前10時00分～午前11時10分
開催場所	和泉市役所3A・3B会議室
出席者	<p>和泉市教育委員会評価委員会 委員長 平良 伸哉          委員 杉田 菜穂          委員 川口 厚          教育次長兼教育・こども部長 土本 修一          生涯学習部長          部長 辻 公伸          次長 前田 志織          生涯学習推進室長 西田 尚司          生涯学習担当課長 橋本 吉人          スポーツ振興担当課長 山本 国央          青少年センター所長 藤原 寛          文化遺産活用課長 森下 徹          久保惣記念美術館館長代理 田中 ゆかり          久保惣記念美術館総括参事兼副館長 橋詰 文之          教育こども部          次長兼教育総務課長 鍛冶 公哉          教育総務課長補佐 大西 薫          教育総務課企画係長 小路 佑樹          教育総務課総務係主事 西川 世理奈</p>
会議次第	<p>1. 開会          2. 教育次長あいさつ          3. 評価委員紹介          4. 職員紹介          5. スケジュール確認          6. 生涯学習部ヒアリング (1) 久保惣記念美術館          (2) 文化遺産活用課          (3) 生涯学習推進室</p>
ヒアリング内容	
取組項目番号16 杉田委員	<p>いずみ市民大学については、今後新しいテーマを設定することで、新たな層がきてくれるかもしれない。</p>

取組項目番号17 杉田委員	コロナが収束して、「はたちのつどい」がより活性化すればいいと願う。
取組項目番号18 平良委員長	優先予約や夜間ナイター半額キャンペーンについて、継続実施の意向はあるか。
山本課長	稼働率向上に向けた取り組みは必要と考えている。毎月1回の指定管理者との会議で議論し、何らかの施策ができたらと考えている。
平良委員長	利用者の意見を集約しながら、進めていただきたい。
取組項目番号20 川口委員	文化芸術活動について、他の自治体に視察に行き、参考にすることはあるのか。
橋本課長	過去には文化協会の交流があったが、コロナもあり、最近はなくなっている。文化協会の所属団体が個々に情報交換をしているので、それをもとに新たな事業を考えたりしている。
川口委員	和泉市と比べて資源が少ない自治体でも、文化芸術活動や美術館の取り組みに力を入れているところがあるかもしれないので、そういう自治体を視察するのもひとつの方法かと思う。
杉田委員	太鼓クリエイションの来場者の推移について、どのように認識しているか。
橋本課長	昨年度まではコロナの影響があり、座席を半減する対応などから参加者が少なかったという認識である。今年度は、太鼓教室等、大きく減っているという認識はなく、継続した文化芸術振興に努められていると感じている。
取組項目番号21 杉田委員	郷土史読本について、具体的にどのような形で販売しているのか。また、市内の方が購入しているのか、市外の方が購入しているのか。

森下課長	<p>市役所の窓口、文化遺産活用課所管の施設で販売している他、一般の書店やネットで販売している。</p> <p>正確な数字はわからないが、これまで本課から発行した他の本に比べれば、相当購入されている。</p>
杉田委員	<p>どういう方が入手してくれているか把握するといろんな施策に活かせる。</p>
平良委員長	<p>改訂作業はいつ頃になるのか。</p>
森下課長	<p>昨年度に小学校6年生と中学校1年生に配り、今年度と来年度に小学校6年生に配る分まで刷っているので、その次の年に改訂したいと考えている。</p>
取組項目番号22	
杉田委員	<p>イベントマラソンについて、市外の方がどの程度関心を持っているか把握しているか。</p>
森下課長	<p>昨年、様々な取り組みを行ったところ、サーカスの効果もあり、来園者はコロナ前の水準に戻っている。市外の方も多く来ていただいた。</p>
平良委員長	<p>令和4年度に出前授業を実施していない理由は。</p>
森下課長	<p>たまたま依頼がなかった。今年度は郷土史読本の活用が進むので、そういう機会もあると思う。</p>
平良委員長	<p>校長会などを活用して、学校で学習の機会を持つ方法を考えていただきたい。</p>
取組項目番号23	
杉田委員	<p>観光資源という側面もあるので、多様な魅力ある企画等で和泉市をアピールするところに紐づけて来訪者の増加に取り組んでいただきたい。</p> <p>老朽化対応については、どういうスタンスで取り組んでいるのか、また、予算取り等を含めて見通しがあるのか。</p>

<p>田中館長代理</p>	<p>10年後に50周年を迎える頃には、寄附でいただいた土地を有効活用するとともに、老朽化しているところを改修したいという思いがある。今後の運営については、庁内の関係部署などと検討を進めていく。財源については、文化庁の補助金はかなり厳しいようなので、観光施設としての補助金確保について研究していきたい。</p>
<p>取組項目番号24 杉田委員</p>	<p>地域的な結びつきが薄くなっている中で、こども110番の協力者が増えたことは評価できる。このような情報を公開することで、市民の一体感につながることもあると思う。行政が子育てしやすいまちをアピールするとともに、数値などの情報を公表し、住民の方とうまく一体感を持てるように、空気感を醸成していくのが良い。</p>
<p>平良委員長</p>	<p>「青少年を非行から守る」市民大会について、参加人数が増える要素は取組団体を増やすか、内容を魅力的にするかの二つしかないと思う。アンケートからニーズを把握し、内容を見直すということだが、内容の充実や、参加団体を増やす目途はあるのか。</p>
<p>橋本課長</p>	<p>新たな団体を取り込むことや、団体を立ち上げるということは、団体の組織運営の問題になるが、内容の充実が一番手掛けることができる部分であると思う。講演内容を含め、検討していきたい。</p>
<p>取組項目番号27 平良委員長</p>	<p>Wi-Fiの整備については、広報いずみや館内でのチラシ掲示などで広めていただきたい。</p>
<p>杉田委員</p>	<p>貧困は経済的な側面で測ることがほとんどだが、文化資本とどれだけ出合えるかという豊かさも非常に重要である。利用率の向上について、様々な方の居場所という認識で展開していただければと思う。</p>
<p>取組項目番号28 杉田委員</p>	<p>取組項目番号27とも関係するが、来館者データの推移を分析し、来館者層の変化などWi-Fiの整備による影響がわかると、今後、図書館に限らずWi-Fi整備等に関しての戦略や方針に使えるということも考えられる。</p>

平良委員長	市立図書館と学校図書館のシステム連携について、将来的に進めていこうという構想はあるのか。
橋本課長	今年度、先進事例の視察を予定している。今後、学校教育と連携をしながら検討していきたい。
取組項目番号29	
杉田委員	国際交流については、コロナ禍で直接訪問ができなくなり、オンライン等創意工夫して実施した経過がある。国際交流の充実を考えるにおいて、費用対効果も含めた再建を試みていただきたい。
平良委員長	「和泉国際交流フェア」の事業主体は和泉市か。
橋本課長	和泉市と国際交流協会が共催し、昨年度初めて開催した。
その他	
杉田委員	今、子どもたちの、家庭でも学校でもない、社会的な居場所づくりが課題となっている。学びの場を提供する観点から、具体的にどこかと連携をした議論をしている、あるいはどこかの施設が実際に関わっているといったことはあるのか。
橋本課長	所管は別だが、放課後子ども教室事業がある。子どもの居場所づくりということで、学校外、家庭外で子どもが地域の方々と一緒に過ごす時間を提供するものである。
辻部長	子どもの居場所づくりについて、地域では、町会、民生児童委員を含めて居場所づくりの実行委員会を作る取り組みを進めている。その中で行政が連携できる分野についても、具体的に話が進んでいくと思う。
杉田委員	今、民生児童委員のなり手不足も含めて、困っている家庭を地域で発見できることの大切さが言われている。地域的な結びつきが弱くなると、困っている人が見つけ出せない、したがって行政に結びつかない。地域が居場所づくりをし、その中で行政が連携する取り組みは住みよいまちづくりをきちんとやっている根拠になる。

その他	
川口委員	<p>スポーツ庁と文化庁が協働で、学校の部活動機能を地域クラブに移行することの必要性を提言しており、これはいろいろな問題が絡んでいると思うが、現状と見通しについて、社会教育の視点から教えていただきたい。</p>
山本課長	<p>今年度から移行期間ということで、検討委員会の設立に向けて庁内で調整している。</p>
鍛冶次長	<p>委員からは社会教育の視点からという質問だが、学校教育も含めて教育総務課が調整している内容について、少し補足する。</p>
小路係長	<p>地域移行の前段として、今年度から部活動指導員を導入している。まずは各校に1名配置予定で、すでに何名か任用している。部活動指導員から地域移行における中心的役割を担っていただける人が出るのが理想的だと考えている。</p> <p>また、和泉市が連携協定を締結している桃山学院大学、桃山学院教育大学、大阪体育大学とも、どのような形で協力が得られるかについて調整している。</p>
平良委員長	<p>国の動向も重要なファクターになると思うが、国が以前に比べ少しトーンダウンしているように思う。その辺りの動向をつかんでいるか。</p>
杉田委員	<p>結局、多方面から課題が出てくるので、人手の問題、安全性の問題、どこに責任の所在があるかなどで、トーンダウンすることはよくある。行政は段階的に取り組み、場合によっては少し様子見という方法が賢いと思う。</p>